

昭島市教育委員会 殿

学校名 昭島市立田中小学校
校長氏名 土屋 正登 印

令和3年度教育課程について（届）

このことについて、昭島市立学校の管理運営に関する規則に基づき、特別支援学級（知的障害）の教育課程を下記のとおりお届けします。

記

1 教育目標

(1) 学校の教育目標

一人一人の子供を人間として尊重し、その能力や特性を伸ばし、社会に役立ち、豊かな生き方ができる人間を育てるために、基礎・基本を徹底し、個性を生かす教育及び人・文化・環境・自分自身などとの出会いを大切に「出会いの教育」を実践する。

- ◎よく考える子（願いや思いをもって生き生きと学習する子ども「問題解決力・学び合い」）
- ・思いやりのある子（思いやりの心をもって、明るく活動する子ども「人間関係形成力・出会い」）
- ・たくましい子（健康や安全に気を付けて力一杯運動する子ども「実践力・認め合い」）

(2) 特別支援学級の教育目標

自己肯定感や自己有用感を育みながら、豊かに生きていくための生活習慣・知識・技能を身に付けさせ、社会生活における自立を目指すための教育を実践する。

- ◎自ら考え、適切に行動できる子（重点目標）
- ・自他を大切にし、協力し合える子
- ・自分のことを自分で行い、最後までやり遂げる子

(3) 学校、学級の教育目標を達成するための基本方針

- (ア) 一人一人の障害の特性や発達課題を十分に把握し、学習意欲や態勢を向上させる。本人や保護者、教育相談、医療機関、幼稚園や保育所、中学校、特別支援学校と連携を密に行い、合理的配慮に基づいた学校生活支援シート及び個別指導計画を作成し、指導に活用する。
- (イ) 一人一人の実態を把握し、教材・教具の工夫及び集団の指導と個別の指導を効果的に取り入れ、基礎・基本に重点を置いた確かな学力の定着を図る。「昭島市立学校教育のユニバーサルデザイン」を推進し、教室環境・学習環境・授業改善を行う。また、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、プログラミング的思考を育成する学習活動を取り入れる。
- (ウ) 生活リズム及び生活習慣を確立させるために、家庭との連携を図る。集団の中で必要なルールやコミュニケーションを身に付けさせ、社会の一員としての自覚をもった自立を目指す。
- (エ) 人権教育の理念に基づき、自他の生命や人権の大切さを理解させ、自己肯定感や自己有用感を育み、思いやりの心を育てる。
- (オ) 道徳科を中心に、教育活動全般を通じて、規範意識や自己を表現する力、自立心及び自律心を育み、適切に判断し行動できる力を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。
- (カ) 児童の実態に応じた交流及び共同学習を校内全体で計画し、推進する。また、居住地校との交流や特別支援学校との副籍交流を充実させ、校内や地域での児童の活動の場を拡充させるとともに、特別支援教育への理解を進める。
- (キ) 地域社会・関係諸機関との協力を密にし、地域の人々の協力や地域の環境を生かしながら、体験的学習や将来を意識したキャリア教育を行う。
- (ク) オリンピック・パラリンピック教育を通して、体育に関する指導を充実させる。体力・運動能力調査の結果や「元気アップガイドブック」、毎学期の体力向上旬間の取組を活用して、基礎体力向上を図る。また、日本や外国の文化を知り、親しむ。
- (ケ) 健康・保健・食育に関する指導を充実させ、自分や他人の体と心を理解し、自他の心と体を大切にできる力を育てる。食育においては、栄養士と連携して、生活単元学習、給食等で食に関する正しい知識や望ましい食習慣について指導する。また、「アレルギー疾患対応マニュアル」に基づいて、食物アレルギー事故防止を徹底する。